

熊本県IPM実践指標【メロン（秋冬作）】

時期	管理項目	管理ポイント
育苗ハウスの準備	ハウス内および周辺の雑草対策	害虫の発生源となる雑草の除去、地表面にマルチ資材を敷設する等、耕種的方法で雑草の発生を防ぐ。
	害虫の侵入防止対策	メロン退緑黄化病を媒介するタバコナジラミとメロン黄化えそ病を媒介するミナミキイロアザミウマの育苗ハウス内への侵入を防止するために以下の対策を行う。 1) 近紫外線除去フィルムの展張。 2) ハウス開口部への目合い0.8mm以下の防虫ネット（目合い0.4mm推奨）の設置。 3) ハウス開口部の内側に黄色粘着テープを設置する。 4) 入り口はビニルや防虫ネットを使用した2重構造として、野外から直接害虫が侵入しないようにする。
	高温対策	赤外線除去フィルムの展張、循環扇を設置して温度上昇を防ぐ。
	資材の搬入	蒸し込み処理前に搬入する。
	ハウス内発生害虫の死滅対策	育苗ハウスの準備が終了した後、1週間程度植物のない状態を作り（蒸し込み推奨）、ハウス内に発生している害虫類を死滅させる。
	害虫の発生調査	黄色粘着板と青色粘着板を設置し、害虫の発生を調査する。
育苗期間	育苗作業	ポットやセルへの土入れ、播種などの育苗作業は全て育苗ハウス内で行う。 育苗作業は、栽培ほ場の管理を行う前に行う。栽培ほ場から移動する場合は、着衣の交換などにより病害虫を持ち込まないように努める。
	資材の搬入	育苗期間に資材を搬入する場合は、害虫が付着していないことを確認する。
	植物の持ち込み禁止	育苗ハウス内にメロン苗以外の植物を持ち込まない。
本圃準備	栽培ほ場周辺での雑草	雑草を発生源とする害虫の飛び込みを抑制するため、畦等の雑草防除に努める。
	土壌病害対策	発生が考えられる土壌病害虫に応じて適切な土壌消毒（太陽熱、熱水、蒸気、土壌還元、土壌くん蒸等）を実施する。
	ハウス内での雑草管理	ハウス内は隙間なく耕起し、雑草をすき込む。全面マルチとし地面の露出を最小限とするよう努める。
	害虫の侵入防止対策	下記の害虫侵入防止対策を行ったあと定植する。 1) ハウス開口部へ防虫ネットの設置（微小害虫には目合い0.8mm以下（目合い0.4mm推奨）、チョウ目害虫には目合い4.0mmを推奨）。 2) ハウス開口部の内側に黄色粘着テープを設置する。 3) 入り口はビニルや防虫ネットを使用した2重構造として、野外から直接害虫が侵入しないようにする。
	畝たて	両側からの散布作業に十分な通路を確保する。
	高温対策	循環扇を設置して温度上昇を防ぐ。
定植時	苗の運搬	運搬時の害虫寄生を防ぐため、定植苗は、目合い0.4mmの防虫ネットを被覆して育苗ハウスから本圃に運搬する。
	定植時粒剤処理	タバコナジラミに効果の高い定植時植穴処理剤を規定量、適切に処理する。
	定植間隔	過繁茂とならないよう、適正な植栽間隔となるよう努める。
定植後～収穫時期	防除要否の判断	黄色や青色粘着板を利用して害虫の発生状況を把握するよう努める。
		ほ場の観察により病害虫の早期発見に努める。
		ほ場内の発生の有無、量と気象予報などを考慮して防除の要否を判断する。
	病害対策	被害株は早期に除去し、適切に処分する（ウイルス病）。
		ハウス内が加湿にならないよう換気する。
	虫害対策	ウリノメイガやヨトウムシ類等、チョウ目害虫の防除には生物農薬（BT剤）を使用する。
		チョウ目害虫の成幼虫を見つけた場合は捕殺する。
		ワタアブラムシの防除対策として、定植30日後から1週間間隔で2～3回天敵農薬（コレマンアブラバチ）を処理する。
	マルチをしていない部分に発生した雑草は除去するよう努める。	
	天敵農薬や土着天敵に影響が少ない農薬（物理的防除薬剤等）を選択する。	
	ハウスを移動する際は、服に付着している害虫を次のハウスへの持ち込みを防ぐため、着衣の交換、手やブローア一等による払い落としを行なう。	

時期	管理項目	管理ポイント
		メロン以外の植物の持ち込みや、栽培は行わない。
	農薬の使用 全般	十分な薬効が得られる範囲で最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で 使用量・散布方法を決定する。
		散布むらが発生しないよう、葉数を最小限とし、直立した仕立てとなるよう努める。
		複数の病害虫が発生している場合は、各農薬の登録病害虫等を考慮し、同時防除 効果により使用薬剤数（農薬成分数）を削減するように努める。
		農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤を連用しない。さらに、当該地域で強い 薬剤抵抗性の発達が確認されている農薬は当該地域では使用しない。
収穫後	病害対策	次作の発生源となる被害残さは除去、処分する。
	虫害対策	次作への持ち越し、周辺への分散を防止するために収穫終了後は蒸し込み密閉処 理する。なお、悪天候等で作物の枯死に時間がかかると予想される場合には、古 株枯死に使用できる薬剤の併用も検討する。
全般	病害虫発生 予察情報の	病害虫防除所が発表する発生予察情報を入手し、確認する。
	作業日誌	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、 使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として 別途記録する。
	研修会等へ の参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加する。